

の下から顔を出す雛のやうに出て来た。「庇護」の語をまざまざと形の上で見た。

弟への影響

四歳の次男「僕幼稚園に行くの」

ミ、長女・長男の幼稚園生活が強く影響し、唱歌やお繪書きのまねを始め、この次男の生活の上に長女・長男の幼稚園

或る日の幼稚園

前田善子

幼い子の手をひいて、親のみが味ひ得る悦びに胸をさきめかせつつ、幼稚園の入園式に臨ませていただきましたのも、未だ昨日の事のやうに思はれます。

二年の歳月は流れ去つて、——さもすれば母親のふところを戀しがつた幼いものたちも、今は、それ／＼望みの國民學校に各自の全力を擧げて突進して行く、たくましい子供達になりました。

よくぞこのやうに育てあげて下さいましたものミ、驚嘆し、かつは隨喜し　唯々先生方の御恩を感謝申上げるばかりでございます。

生活が大きく反映して來てゐる。特に面白いことは、夕食後學藝會ミ稱して、長女・長男が交替で唱歌を歌ふミ、次男もよろ／＼出て來て、自分でお辭儀をし乍ら、拍手し、たゞ／＼しく歌ひ終るミ又お辭儀ミ拍手を一人ですまし嬉々ミして喜ぶ。幼稚園の生活は我が家の團樂にまで及ぶ。

(昭和十八年二月九日)

我々は、空氣や日光の有難さを、毎日意識しながら暮してをりませうか？その恩恵が餘りに大きすぎますので、私にござりまして、幼稚園は意識の對照ミはならなかつたのでござります。何か幼稚園に對しまして、批判の餘地があるミいふのでしたら、それが私共の意識の中に浮び上つて來る筈でございます。唯、満足の他にないものもない場合、もつたない事ながら、大恩になれきつて、その儘に日々をすごしてまゐりました。

例ミしては、いささか當を得てをらないかも知れませんが、或る方が「健康ミは、自分の體内に何の所在も意識され

ない状態である。こ仰有いましたのを、非常に興味深いお言葉。伺ひましたが、私の幼稚園に對しましての感じも、まさにこれと同様でございます。

子供をめぐつて、幼稚園と家庭とが、しつくり結合されてをります爲、又幼稚園の教育がまここにお立派で、間然する處がない爲、却つて、この大いなる存在は、私共の自己の生活の内に融合されて、最も自然な状態として「あるままにある存在」にしか、考へられない迄になつてしまつてをります。

私などは「うちの子供は、今幼稚園に居る」を思ひます時はじめて、子供に對して何の懸念も心配もなく、安心しきつて、自身の務めに勵む事が出来たのでございます。

幼稚園への、絶對の信頼と感謝とは、餘りにもその思ひが深すぎますので、私には感想などいふ程度の氣持では、到底何も申上げられません。

唯、私は「或る日の幼稚園」をして、かつての日、参上いたしました折の、印象深く感じました一情景を、思ひ出します儘に、それをここに書かせていただき度く存じます。

○ ○ ○

爽やかな、夏の或る日、私は幼稚園を訪問いたしました。いつものお部屋へ伺ひましたが、がらんとして人影一つ見えませんでしたので、不審に思ひ乍ら、お庭へ降りる階段

の戸口までまゐりました。

するに、私は思はず「まあ！」と感嘆の聲を發して、目前に展開された光景に目をみはつたのでございます。

涼しい木かげに、机や椅子が持ち出され、先生のまわりに集まつて、繪を描く子、手工細工をする子、マゴト遊びをする子……ブランコ、オスベリ、砂遊びも、それらの遊びに全く餘念ない有様でございました。青葉のお庭に、色紙をまき散らしたやうに、色ざり々の洋服姿の子供達が、あちらこちら蝶か小鳥のやうに、嬉々として飛び廻つてをりました。

空は限りもなく澄み渡り、燦々ときらめく太陽の光は、丈夫さうな、赤い小さな頬を照し、涼風は可愛らしいおかつばさんのやはらかな髪の毛を、撫でるやうに吹いてゆきました。

この美しい園のうちには、平和と、豊かな愛とが満ちあふれてをりました。

私は「平和」とも「樂園」とも題すべき、如何なる巨匠の筆も及ばぬ、この目前の名畫に、我を忘れて、しばし、うつろひを見せられてをりました。

受持の先生は、砂場でせつせ何かつくつてゐる小さな人達をおゆびさしになつて、「この人達は、今トーチカを防空壕を造るので夢中ですよ」と私をふりかへつて、微笑なさ

いました。

なる程、お砂の山さ見えましたのはトーチカ。トンネルのやうな形は防空壕でございました。子供達は小さな手で、一生懸命に、わきめもふらずに造つてをります。子供としては、この一塊の砂に、彼等の魂をこめて、眞實のトーチカや、眞實の防空壕を建設しやうものさ意氣こんでゐるのございました。

男の子達は、未來の丈夫マストラとしての氣魄を眉宇に漲らせて、築城に全能力を發揮いたしてをります。女の子達は、銃後を守るべき婦人として、防空壕の方を引うけてをるらしいございました。

先程、感動いたしました「平和な樂園」としての幼稚園は、更に大きな意義を私に顯示してくださいました。

あまねき大君のおめぐみに浴し、南に北に戦つてをられる將兵達に護られ、先生方の親にも勝るお情に温められて、次の時代を脊負ひ立つべき國民の、苗床さもいふべき幼稚園で、毎日すく／＼生ひ育つて行く子供達の幸福——日本の子供の幸福——さいふ事を沁々さ感じさせていたたたきたまし。

小さな子供達を、おあづかり下さいます先生方の、片時も御心やすまる時なく、如何にして、この子供達を、將來立派な國民さなるやう育てるべきか、又如何にして、空襲

その他の災害から擁護すべきか、日夜御苦心遊ばしていらつしやるお心によつてこそ、はじめて、あの平和な樂園氣は醸し出されたものであるさ悟るこゝが出来ました。

戦時下にあつて、童心をおびやかすこゝもなく、日本人として、大君の御爲に、正しく、直く、強く生きる事を教へ示してをられる、幼稚園の悠々迫らぬ、あの平和な光景は、唯一重に、先生方のたゆみなき大いなる御努力の賜である事を痛感いたしました。

改めて、先生方に厚く御禮を申し上げます。

子供達は、この四月に國民學校へ入學させて戴く事になりました。もう、なつかしい幼稚園さもお別れ申上げなければなりません。併し、子供達の一生を通じて、最も美しい、楽しい思ひ出さして、この二年間の幼稚園生活の記憶は、終生彼等の腦裏から消え去る事は、ございませんまい。そして、いつまでも先生方を、お懐しくお慕ひ申上げる事でございます。

この小さな人達にも、やがては、社會の各方面に送り出される日が、訪れて参りませう。

きはみなき皇恩に報い奉るべく、師の恩、社會の恩を心に銘記して、一日も早く、お國のお役に立つ有爲な人になる事が出来ませう、ひたすらお願いいたします。